

# No. 1020

## 87 時間 の 証 言

### —日航機乗っ取り事件—

7月21日未明、アムステルダム上空でアラブゲリラに乗っ取られた日航機747。ベンガジ空港で機体は爆破されたものの、乗員、乗客は事件発生後一週間全員無事に帰国した。

羽田空港に出迎えた家族や知人と涙の対面をすませた乗客、乗員や関係者は恐怖に包まれた87時間を次のように証言した。

証言1 宮下パーサー 二人の若い男女がラウンジで食事をしてもいいかと聞いたので、「いい」と答え、ラウンジに上った。ラウンジには2つの椅子があり、前に女性、後に男性がいた。奥さんと思われる女性に回転椅子の説明中、「ボン」という強烈な音が2回あった。電気のトラブルかと思った。

証言2 小沼機長 アムステルダムをすぎて突然大音響があった。はじめビーコック・レーションがあったと思った。計器を見たが何ともなかった。そのうちピストルを持った男がハイジャック、ハイジャックと言ってきた。犯人は非常に興奮していた。君のいう通りにするのだから落ちつけとなだめたら少し落ちついてきた。

証言3 乗客 最初の日是非常にあつくて、機内がムンムンしてまして、心配しました。2日目、3日目はそれほどなかった。機内食のボール箱にインターナショナル・オブ・ドバイエアポートと書いてあったので、ドバイだとわかった。犯人は夜でもサングラスをかけていた。指紋を取られるのを非常にいやがっていて、常に手袋をはめていた。

証言4 佐藤運輸政務次官 ドバイを発つ時、国防大臣が私に燃料の要求があったが、どうするかといったんで、私は「ノー」と答えた。ところがすでに、20分後に燃料を入れなければ、爆破すると言ってきた。15分すぎて国防大臣がこれは要求に応じなければ、本当に爆破するかも知れないという緊迫した空気になったので「イエス」と返事した。

証言5 乗客 離陸の時、ジャンボ機の後が下っていくのがわかった。これは死ぬなと思って悲鳴をあげた。

証言6 乗客 ベンガジに着陸する時、この飛行機を爆破する。しかし乗客の安全を図るため着陸してから3分以内に機体から遠くへ逃げてくれ。そしてあと2分の余裕を見て爆破させるという話が犯人からあって、皆いよいよだ！と思った。

証言7 朝田日航社長 全員無事救出の報告を聞きほっとしている。大勢の人々に御迷惑をかけ、また御心配をかけ申し訳けなく思っている。ドバイ首長国連邦では大統領はじめ皆、よくやっていただいた。国防相は25歳という若さだったが、慎重に深い配慮のもとによくやってくれた。乗員もよくやると、乗客の皆さんにほめてもらった。日頃のハイジャックされた時の心得を忠実に守ったことが功を奏したものと思う。今後、ハイジャック対策は厳しくやっていくつもりだが特効薬はない。地道にやっていく。

証言8 佐藤次官 アムステルダムの発信局で「ポーランドの子供達」という名前でタワーに電報が来た。それをタワーから日航機に伝えた。その内容は

パッセンジャーをはなせ……と。

神はお前たちと共にあり……と。

この電報と西独からの2通の電報がこの事件のカギをにぎっているような気がする……。

終始、「本部の指令を待つのみ」と言いつづけた犯人側、日航機乗っ取りの真の目的は何か、多くの謎を残したまま、まだ真相の解明はなされていない。